

中坪の歩み

発行
中坪の歩み
研究委員会

過去の
「中坪の歩み」



中坪公民館の納涼祭 雨の中でも屋台に行列



納涼祭を楽しみにしていた多くの区民が会場を訪れました

コロナ禍を経て再開されてから3回目の中坪納涼祭となりました。開始早々に雨が降り始め、客足が遠のいてしまわなにか心配されましたが、大勢の方が傘をさして屋台に並んでいて、中坪納涼祭は雨の日とは思えないほど活気に溢れていました。

さまざまな行事やイベントが縮小傾向になっている中で、食品を販売する屋台などを運営してお祭りを開催するのは本当に大変な事です。それを実行してしまう運営委員や中坪区民の皆さまは本当にすごいなと感じました。

中坪納涼祭は伊那市の中でお盆に開催される数少ない貴重なお祭りだと思います。たくさんの方々が中坪納涼祭を楽しみにしてくれていますので、是非来年度以降も継続していければと思います。

中坪公民館
社会産業部長 ○○○○

中坪地区社協から 敬老会へのお誘い

75歳以上の
区民の皆さま
を対象に、9
月21日（月）
（敬老の日）
11時から「て
らとびあ」に
て「中坪地区
敬老会」を開
催いたします。

○敬老会は、テーブル・椅子席をご用意いたします。
○当日は、地区内の小学生の作文朗読や紙芝居、手良太鼓、マジックを行う

予定です。
○ご自宅の近くまでマイカーバスによる送迎を行います。
現在20名を超えるみなさまの出席で準備を進めておりますが、更に多くの方の出席を頂きたく、都合のつく皆さまは9月5日（土）までに各常会の社協役員へお声をかけをお願いします。皆さまのご参加をお待ちしております。
（中坪地区社会福祉協議会 会長 ○○○○）

棚沢川 1・2番井

大雨で取水口、砂払い、導管が埋まる 川床上がり 土砂流入止まらず

棚沢川は7月27日のレベル4の大雨以降1週間以上に渡って濁り続け、一番井・二



土管内の土砂撤去作業

番井の水門が土砂で埋まり水路に砂が流入し続けました。水利委員は水門の閉鎖を繰り返して、砂払いを解放して柵の土砂を流し出し、備え付けのカゴで柵の土砂上げ作業を行い、取水確保をしてきました。しかし、8月15日納涼祭中に降った雨がトドメとなり、一番井の取水口、砂払い、導管の全てが完全に埋まりまし

7月の区会議員会の際に、田舎暮らしサポート委員会の説明会が開催されました。この委員会は、手良地区活



田舎暮らしサポート委員会の活動を聞く区会議員の皆さん

性化促進会議に所属し、少子高齢化の課題解決のため、「企画委員会」と共に、活動の中心となっている委員会です。主な活動は、移住者支援と、今後増すことが予想される空き家問題への取り組みとなります。

7月区会の開会前に

田舎暮らしサポート委員会の活動状況を聞く

そのための情報発信の一環として、今回の説明会が開催されました。キーワードは「空き家バンク」と「田舎暮らしモデル地域」です。それぞれ伊那市からの

補助金などがありますので、常会長などを通して、内容が区民の皆さまに周知されれば有難いと思います。
○「空き家バンク」
空き家の所有者が「空き家バンク」に登録していただくと、増改築や家具などの搬出・清掃に補助金が出ます。また、この制度を利用し、今年中坪に新たに2世帯が加

○「田舎暮らしモデル地域」

移住、定住を促進し、地域の活性化に取り組む地域として、手良地区も

令和6年7月より認定されています。補助金

としては、新たに手良地区に移住されるだけでなく、地域の方にもメリットがあります。

例えば、住宅の新築150

中坪ノースの 稲刈りスタート

夜間通水で
圃場を冷やすなど
生育管理



8月10日、中坪ノースではJA上伊那管内最初の稲刈りを開始しました。品種は粘りと甘みが特徴の「五百川」。

今年本物だ。最高気温は体温を超え、屋外に一歩踏み出せば、アスファルトから立ち上がる熱気が身体を包み込み、まるで巨大なドライヤーの風を全身で浴びているかのような熱気が襲ってくる。

かつて夏の風物詩といえば、風鈴の音や蚊取り線香の煙、夕暮れの打ち水だった。しかし、この記録的な酷暑の中で登場した「現代の風物詩」は少し装いが違う。ハンディファン、首元を冷やすアイスリン

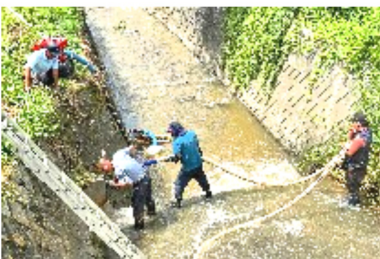
グ、男女問わず手放せなくなつた日傘。そしてスマホに届く「熱中症警戒アラート」だ。

かつての風情とは趣が異なるものの、過酷な暑さの中で知恵を絞って、命を守るためのギヤ（高機能な暑さ対策グッズ・装備）や習慣が、今や新しい季節の風物詩として定着しつつある。

夕暮れ、遠くで鳴くヒグラシの声にふと季節の巡りを感じる瞬間はある。だが、風流に浸る余裕すら奪うのが今の猛暑だ。まずは冷房の効いた部屋で水分を補給し、安全を確保すること。そこそこ、この異常な夏を生き抜くための「新しい正解」なのだろうと思う。

暑さに文句を言いながらも、新しい工夫を取り入れて夏を迎える私たちの姿も、案外悪くない。来年はもう少し手加減してくれることを祈りつつ、冷えた麦茶を飲み干してこの酷暑を乗り切りたいと思う。

（K・S）



ポンプの水圧で土砂を吹き飛ばす

翌16日早朝、区長と水利委員長で状況の把握の後、そこから17日の18時過ぎまで2日間、詰まった土砂の撤去作業を行いました。作業は、区長要請により○○○○○○にポンプでの土管内吹き、出てきた土砂をバックホーで引き上げという作業をおこなって

もらい、区長、水利委員長、水門管理員により延べ14時間

をかけて行いました。

さらに18日朝、16日の時点で、それまでなんとか水流を確保していた二番井が埋まつてしまい、19日早朝より区長、土地改良区の○○さん、水門管理担当者で、備え付けの力

で、それまでなんとか水流を確保していた二番井が埋まつてしまい、19日早朝より区長、土地改良区の○○さん、水門管理担当者で、備え付けの力

で、それまでなんとか水流を確保していた二番井が埋まつてしまい、19日早朝より区長、土地改良区の○○さん、水門管理担当者で、備え付けの力

で、それまでなんとか水流を確保していた二番井が埋まつてしまい、19日早朝より区長、土地改良区の○○さん、水門管理担当者で、備え付けの力

で、それまでなんとか水流を確保していた二番井が埋まつてしまい、19日早朝より区長、土地改良区の○○さん、水門管理担当者で、備え付けの力



多くの檀信徒が参列した大施食会

大施食会法要（だいせいじきえほうよう）は、お盆に先駆け先祖供養の法要と問きました。この法要が8月9日に清水寺本堂にて行われ、第十教区の御住職さま方10名ほどが御随喜なさつ

投稿
大施食会法要に参列して

ての法要でありました。大勢の僧侶の方々の読経が本堂に響き、大変感動をうけました。檀信徒の皆さんも大勢参列され本堂がいっぱいになるほどでした。この法要に参列し、お盆を迎える心構えができたような気がしました。

日々お寺の行事にはあまり関心ありませんでしたが、それぞれのことや、法要終了後、個々の名前が入ったお盆先祖供養塔婆をいただき帰路に着きました。

（Y・I）



花火大会（手良小学校校庭）

子どもたちの夏休み

残念
毎年行っている
マスつかみ大会は
棚沢川の
大雨被害が大き
川に入ることが
できないため
中止になりました



スイカ割大会（中坪公民館）



朝のラジオ体操（中坪公民館）

現上伊那郡内の村々（江戸時代）領主				(表1)			
村名	領主	村名	領主	村名	領主	村名	領主
南小野	千村氏	羽広	松本藩預	小出	高遠	伊那	高遠
雨沢	高遠	上戸	松本藩預	沢渡	高遠	火山	高遠
上島	高遠	梨木新田	松本藩預	表木	高遠	大久保	高遠
横川	高遠	与地	松本藩預	諏訪形	高遠	栗林	高遠
小横川	高遠	大萱	松本藩預	下牧	高遠	塩田	高遠
辰野	高遠	中条	松本藩預	高遠町	高遠	菅沼	高遠
宮木	高遠	吹上新田	松本藩預	鉾持	高遠	本曾倉	高遠
宮所	高遠	中曽根	松本藩預	板町	高遠	中曾倉	高遠
羽場	高遠	大泉新田	松本藩預	弥勒	高遠	大曾倉	高遠
北大出	高遠	御園	高遠	的場	高遠	高見	高遠
今村	高遠	山寺	高遠	野笹	高遠	吉瀬	高遠
新町	高遠	御舞瀬	高遠	板山	高遠	中山	高遠
平出	高遠	狐島	高遠	中村	高遠	宮田	高遠
樋口	高遠	日影	高遠	中条	高遠	中越	高遠
赤羽	高遠	古町	高遠	黒沢	高遠	赤穂	飯島陣屋
沢底	高遠	境	高遠	四日市場	高遠	上穂	千村氏
沢	板倉氏	上新田	高遠	栗田	高遠		近藤氏
松島	太田氏知行	下新田	高遠	台	高遠	飯島	飯島陣屋
北松島	板倉氏	上牧	高遠	北原	高遠	田切	飯島陣屋
木下	松本藩預	野底	高遠	荒町	高遠	石曾根	飯島陣屋
八乙女	松本藩預	西伊那郡	高遠	水上	高遠	本郷	飯島陣屋
上古田	松本藩預	福島	飯島陣屋	御堂垣外	高遠	田島	飯島陣屋
下古田	松本藩預		松本藩預	片倉	高遠	前沢	飯島陣屋
富田	松本藩預	八ツ手	千村氏	殿島	高遠	小平	飯島陣屋
大出	松本藩預	野口	千村氏	原新田	高遠	葛島	飯島陣屋
中原新田	松本藩預	中坪	千村氏	貝沼	高遠	大草	飯島陣屋
北小河内	松本藩預	下寺	太田氏知行	勝間	高遠	四徳	飯島陣屋
南小河内	太田氏知行	青島	高遠	山田	高遠	田原	高遠
長岡	松本藩預	大島	高遠	小原	高遠		
三日町	松本藩預	川手	高遠	黒河内	高遠		
福与	太田氏知行	芦沢	高遠	溝口	高遠		
殿村	太田氏知行	笠原	高遠	非持	高遠		
北殿	太田氏知行	笠原南割	高遠	市ノ瀬	高遠		
南殿	太田氏知行	末広	高遠	浦	高遠		
久保	太田氏知行	新山	高遠	芝平	高遠		
田畑	松本藩預	福地	高遠	山室	高遠		
御(神)子柴	松本藩預	貝沼	高遠	荊口	高遠		
大泉	松本藩預						

幕末から9年間の激動

「信濃の国」から「長野県」への変遷 ①

最初に「伊那県」が誕生

少し前になりますが、阿部守一長野県知事が「今年は長野県が今の形になって150年になります」との話をされました。150年前という1876年ごろになります。和暦では明治9年になります。明治維新から9年間で長野県はどのような変遷を経て今の形になったのか調べてみました。

わけです。現在の伊那市や宮田村は諏訪郡に入っていたことになり。もちろん上下伊那に分かれてはいなかったようです。

さらに秀吉の太閤検地が実施される前までは、国境、郷境、村境は、はっきりとはしていなかったようです。なので、当時の武力・権力者は力によって自分の領土を広げていくことが当たり前で、たわけです。上伊那関係でいうと武田信玄が諏訪の方から伊那郡はそれより南側になる攻め込んできて高遠・手良・

和名類聚抄（わみようらいじゆしやう）（注1）によると、信濃の国には伊那・諏訪・筑摩・安曇・更科・水内・高井・埴科・小県・佐久の10の郡（こおり）に分かれていたと記されています。さらに伊那郡には5郷あったとも記されています。現在の大田切あたりまでは諏訪郡で、当時の伊那郡はそれより南側になる

10の郡に分かれていた信濃の国

箕輪と勢力を広げていきました。しかし、秀吉の時代になって検地が行われてからは村々ごと、この田んぼは広さがどのくらい、田の質を上田・中田・下田・下下田と四つの等級に分けられ、収穫がどのくらい可能か、耕作所有者は誰かなど、詳しく調べられました。田んぼだけでなく、畑、家屋敷の広さ、等級・山林なども調べられました。この結果を基に年貢が算出されました。中坪村でも江戸時代寛文9年（1669年）行われた分厚い検地帳が郷蔵に保存されています。（多分）

今の上伊那郡について考えていくことにします。市町村合併が進む前までは、北から辰野町・箕輪町・南箕輪村・伊那市・高遠町・長谷村・宮田村・駒ヶ根市・飯島町・中川村でしたが、江戸時代にはたくさん村がありました。

天領 中坪村は千村氏が治める

中坪村はご承知のとおり、木曾義仲の重鎮であった木曾義利の末裔（まつえい）千村平右衛門（旗本）でしたが、社領、お寺領、旗本領、他藩の預かり領などたくさんありました。江戸時代は伊那郡でも上・下伊那と別れてはいませんでしたので、今の下伊那郡でもたくさん村々があり、すべてが飯田藩によって治められていたわけではありませ

信濃には江戸時代の初めころは大小、16もの藩がありましたが、後継ぎがいなかったり、武家諸法度に触れるような行いがあつたり、財政破綻のため返上したりして取り潰しされたり、没収されたりして版籍奉還をし、廃藩置県を

（表1）

上伊那郡内では高遠藩は明治2年（1869年）版籍奉還し明治4年（1871年）廃藩置県により高遠県となりました。高遠藩によって治められていた村々は高遠県になりましたが、それ以外の村々は高遠県ではありません。大政奉還・版籍奉還により日本中の村々は新政府が治めることになったので、中坪村や野口村、八ツ手村、下寺村のように藩に所属していなかった村々は新政府が直接治めていくようになります。ここから大変な動きが始まったわけ

幕末から9年間の動き

1868年	明治元年	幕府直轄地などが明治政府直轄となり「伊那県」設置
1870年	明治3年	北部地域が分立して「中野県」が発足
1871年 (7月～11月)	明治4年	廃藩置県により信濃国内に14の県が乱立した後、第1次府県統合によって「長野県」（北信・東信）と「筑摩県」（中信・南信・飛騨国）の2つに集約
1876年	明治9年	筑摩県庁の全焼事故などを契機に第2次府県統合が行われ、筑摩県の信濃国エリアが長野県へ編入(飛騨エリアは岐阜県へ)ほぼ現在の長野県の領域が完成

迎えた藩は八つの藩だけでした。ここで、松本藩のあった筑摩郡について現在とは少し変わった支配になっていたようです。調べてみました。

筑摩郡は贅川に開所があり、その開所から南側つまり今の木祖村・木曾福島の方は尾張藩領になっていました。つまり、信濃国ではなかったというようになります。

どの藩にも属さない村々の統治

信濃国ではどの藩にも所属していなかった村々（神社領、寺領・大名領・幕府直轄領など約21万8千石）は散在していましたが、他の藩の様子を見ると甲府藩（今の山梨県全域）や飛騨藩（今の岐阜県高山市地域）のように藩全体が幕府領であつた藩もあります。藩全体がいわゆる天領だと京都の新政府も統治しやすいのですが、信濃国のように広範囲にあつたどの藩にも所属していなかった村々はどのようなになっていたかについて調べました。

大政奉還の時、天皇はまだ京都にいました。京都新政府（朝廷）は諸藩に属さない直轄地（旧幕府領地）を治めるために地方行政機関として裁判所を十二か所に設置しました。今の裁判所とは異なります。（以下次号）

文責 ○○○○

① 和名類聚抄

平安時代中期に書かれた辞典

② 版籍奉還

大名から土地（版図）と人民（戸籍）の支配権を朝廷に返上させた政治改革